

# 大阪府立千里高等学校

## 平成 28 年度 第 1 回学校協議会 会議記録

○ 日時 6月30日(木) 14時00分～16時00分

○ 会場 校長室

○ 議事概要

① 平成 28 年度学校経営計画について

- 文理両方の学力の向上 アクティブラーニングの積極的導入
- 自学自習の習慣を身につけさせる。昨年度より生徒カルテを導入 学習・生活指導に活用していく
- 探究力養成の取り組み 授業研究・他校との交流
- 生徒の到達度・達成度を学校教育自己診断などを用い、数値化してフィードバックしていく

② 平成 28 年度大学入試結果について

- 現役生の国公立大学合格者 75 名。昨年度と同数。 関西の人気大学に約 80 名

③ 平成 28 年度入学生 (50 期生) の状況について

- 教科の学習、課題研究、部活動等自主活動いづれにも意欲的に取り組んでいる。

④ スーパーグローバルハイスクール(SGH)の取り組みについて

- 昨年度末の千里フェスタでは 2 年生が全員発表。1 年生はディベート代表チームの対戦を行った。  
学外では大阪大学・関西学院大学で SGH 校合同研究発表会に参加。 今年度は新たにグローバルカレッジイングリッシュキャンプを 8 月に実施。30 名が申込。台湾の高校・NGO との連携を検討中。

⑤ スーパーサイエンスハイスクール(SSH)の取り組みについて

- 今年度は不採択であった。生徒の意識調査から SSH の取り組みに生徒の意欲・学力向上に寄与したと判断できる。

○ 協議

①学校経営計画について

- 委員より、「目指す学校像」は方針ではなく生徒の主体性を高めるという取り組みについて、評価できる指標を表記するのが望ましいとの指摘があった。学校より、千里マップ・生徒カルテ・探究・10 年後の自分など将来のビジョンを念頭に置いた取り組みを生かし、次年度の学校経営計画作成に反映させたいとの回答があった。

②主権者教育について

- 委員より、18 歳選挙権に関わっての取り組みを知りたいとの要望があった。学校より現代社会や総合的な学習の時間の授業で模擬投票などを行うといった取り組みを実施したとの回答があった。

③校内 ICT 機器のセキュリティについて

- 委員よりタブレットの使用に関してセキュリティの現状に関する質問があった。学校より教材のやりとりは校内に限られているとの回答が合った。

④オープンな学校協議会のあり方について

- 委員より、学校協議会の委員が授業を見学したり、学校協議会を教員全員が参観できるようにできないかとの要望があった。学校より、前向きに検討したいとの回答が合った。

○ 教頭より

校内教科書選定委員会をひらき、教科書選定過程を明確にし 7 月 22 日までに府に報告

# 大阪府立千里高等学校

## 平成 28 年度 第 2 回学校協議会 会議記録

- 日時 11 月 10 日 (木) 14 : 10 ~ 15 : 30
- 会場 校長室
- 議事概要
  - 1 平成 28 年度の取組みの進捗状況
    - 50 周年記念式典は生徒を前面に出すことで成功
    - 「科学探究」「探究」を千里の強みとして取り組む
    - コミュニケーション能力・知的技能を高める取り組みを進める
  - 2 総合科学科の取り組みについて
    - 科学探究の中間発表会を持つことで意欲を維持。1 年生にも見学の機会を与える  
研究のプロセスを大切に、ものづくりを重視する
  - 3 国際文化科の取り組みについて
    - 探究では研究の筋道を生徒に示すことでスムーズに進めることが出来ている。  
SGH 初年度の 49 期生が 2 年生となり、これまで以上に意欲が高くなっている
  - 4 学力向上への取り組みについて
    - 家庭学習が 1 時間半以上の生徒は 3 割であり、国公立進学率と類似している  
一方 30 分以下という生徒が 5 割であり、二極化している
- 協議
  - 1 学校協議会委員による授業見学の感想
    - 生徒が受け身にならないよう教員が一方的に話すのではなく双方向的な授業が望まれる
    - 反転授業を更に進め授業の前後に勉強させる工夫が必要
    - 授業の相互見学を進め教員が学び合う体制づくりが必要
  - 2 「科学探究」「探究」の取り組みについて
    - 研究対象を世の中の動きに連動し、企業が研究に取り組んでいる課題などを見据えたものにしていくのがよい
  - 3 学力向上の取り組みについて
    - 目標設定・行動計画を生徒に作らせてみてはどうか
    - 中間層に目標を持たせる必要性がある
    - 答えが合うことではなく、「考える」ことを重要視し時代の流れを先取りした教育を行って欲しい

大阪府立千里高等学校  
平成 28 年度 第 3 回学校協議会 会議記録

- 日時 平成 29 年 2 月 24 日 (木) 14:00~16:00
- 会場 校長室
- 出席者
- 議事概要
  - 1 平成 28 年度学校経営計画の達成状況及び学校教育自己診断結果
    - 重点目標は概ね達成できているが、1 年生 2 回目の学力診断テストにおいて、49 期生よりも上位層が減少、下位層が増加した点、おおび全校的な研究授業の実施ができなかった点が課題として残る。
  - 2 学習状況・学校行事・課外活動等
    - S G H の取組み報告
      - ニューヨーク研修報告 人権・労働をテーマに 2 年生 12 名が参加、昨年よりも事前・事後学習を綿密に行い、チームごとにテーマ意識を持ち、事後に他の生徒に還元できるように取り組ませた。
      - 課題研究 次年度に向け、教員間で評価の観点・教材の共有化を進め、役割分担を明確化する。また、校内に課題研究のセンターを作り、地域との連携を深める。
    - 科学探究の取組み報告
      - 「グローバルな課題を解決する 21 世紀型科学者の育成プログラム」という研究開発課題を掲げ S S H の申請を行った。ディスカッションや校外での学びの機会を多く設け 20~30 人の核となる生徒をリーダーとして育成する。また教員による「探究指導評価委員会」を設置し教員の指導力を高める。
    - 進路状況
      - 国公立では 5 名が推薦入試に合格している。また海外の大学では 1 名が韓国の延生大学に合格。
- 協議
  - 1 身につける力の再確認
    - 1 年生前期に意識を喚起することが必要。将来の自分像を描かせられるよう、ロードマップを作成しオリエンテーションを行うべき。
    - 主体的・対話的で深い学びが実践できるよう体制づくり（プロジェクトチーム・教科間連携）を行うべき。
    - 卒業生など社会人との出会いの場の数を数値化する。
  - 2 学校教育自己診断の有効化について
    - 数量調査だけでなく、面談を通じて実質的な内容を把握すべき。
    - 千里フェスタの成果を確認できるよう、2 月にも調査を実施すべき。